マーケットキーワード

2021年1月4日　情報提供資料

三井住友DSアセットマネジメント

今日のキーワード　宅森昭吉に聞く『2021年の日本経済』

2020年1月の「景気ウオッチャー調査」に初めて「新型コロナウイルス」という言葉が登場し、それ以降、感染拡大が景況感に大きな悪材料となっています。年末の風物詩にもその影響が色濃く表れ、新語・流行語大賞は「3密」、今年の漢字は「密」が選ばれました。ただし、景気循環的に見ると、景気の底堅さは維持されており、欧米ではワクチン接種も始まりました。21年は基本的には緩やかな景気回復基調が続くことが期待されます。

ポイント1　「鬼滅の刃」のヒットやJRAの売得金増は景気面で明るい動き

■ コロナに景気が翻弄される一方、「鬼滅の刃」が大ブームとなっています。週刊少年ジャンプに連載されていた漫画作品で、10月に公開された映画は12月13日には、公開59日間で最速で300億円を突破しました。原作コミックもシリーズ累計発行部数（電子版を含む）は1億2,000万部を突破しました。またJRA（日本中央競馬会）の20年の売得金累計金額も前年比で増加しており、これも景気面で明るい動きです。

ポイント2　「今年の漢字」“密”は温かく前向きな面も

■ 2020年1月の「景気ウオッチャー調査」に初めて「新型コロナウイルス」という言葉が登場し、それ以降、感染拡大が景況感に大きな悪材料となっています。2020年の漢字は新型コロナ関連から選ばれ、「密」となりました。「密」は、新語・流行語大賞は「3密」だったため2冠を獲得した形です。「密」はコロナ関連の漢字の中でも、予防策として語られることが多く、コロナ禍の「禍」などと比べ、「親密」などの使われ方から見て、どちらかと言えば温かく前向きな面もあります。21年はコロナを克服し、オリンピックが予定通り開催され、今年の漢字が「金」などの明るいものになることを期待します。

宅森昭吉（たくもりあきよし）。三井住友DSアセットマネジメント（以下弊社）理事・チーフエコノミスト。1957年東京生まれ。三井銀行（現三井住友銀行）入行後、同行調査部、市場営業部などを経て、2002年弊社チーフエコノミストとなり、2012年4月より現職。著書に「ジンクスで読む日本経済」など。

今後の展開　コロナに翻弄されるも、『2021年の日本経済』は底堅い

■ オールジャパンのエコノミストのコンセンサス調査である「ESPフォーキャスト調査」（12月調査）で、先行きの予測を見ると、10～12月期は前期比年率3.4%で、21年1～3月期から22年1～3月期は前期比年率1～2%台の増加で推移するというのが平均的な見方です。またESPフォーキャスト調査（11月の特別調査）における景気のリスクの問いに対し、ほとんどのフォーキャスターが指摘したのが「新型コロナの感染状況」でした。

■ 『2021年の日本経済』は新型コロナ感染拡大を抑制しながら、緩やかな景気回復が続く見込みです。その要因としては、(1)輸出の回復による生産など経済活動の持ち直しが続くこと、(2)設備の過剰感が増している気配はないこと、(3)現状も先行きも雇用、製造業在庫に関して、過剰感が増しているという状況にはないこと、(4)政府の大型経済対策が取られること、(5)2021年中には新型コロナの治療薬の開発と合わせ、コロナ感染終息に向けた流れが見込まれること、などが挙げられます。

ここもチェック！
2020年12月22日　2020年の日本株式市場の振り返りと見通し
2020年12月17日　FRBは量的緩和ガイダンス強化で景気をサポート

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。